

授業改革と

動き育てる組織づくりの

ススめ vol.8

第8号で紹介するのは、石狩管内教育推進の重点1の「対話」を重視した授業改革と、ICTを有効活用した授業改革について、児童生徒が主体的に学習活動を進めている事例です。

対話を重視した授業改革とICTを有効に活用した授業改革の実践事例

北広島市立緑ヶ丘小学校 第2学年 道徳



困っている人に何ができるかについて、友達の考えと自分の考えの共通点や相違点を伝え合い、価値交換を行っていました。

相手を思いやることのよさや、難しさについて主体的に交流し、物事を多面的・多角的に考えようとしていました。

北広島市立西部小学校 第4学年 国語



文章を要約する際に、ICTを活用して取り組んでいました。

友達からのアドバイスを参考にしたり、修正した文章を比較したりしながら、文章の内容を端的に説明するという目的を意識して、主体的に学習活動を進めていました。

千歳市立東千歳中学校 第3学年 社会



地方公共団体の政治の仕組みについて、新聞やICTを活用して調べ、課題解決に向けて進んで取り組んでいました。

生徒同士で調べた内容の共通点や相違点を価値交換することにより、新たな視点に気づき、学びを深めていました。

江別市立江別第三中学校 第3学年 美術



理想の部屋を描く活動において、ICTを活用し表現技法を検索したり、友達と対話したりして、発想や構想を膨らませていました。

立体的に表現するために様々な表現技法を用いて構想を練るなど、主体的に学習に取り組んでいました。

【担当から】

子どもが主体となる授業を構築・実践することは、一人一人の可能性を引き出す教育を推進することに繋がります。「対話」と「ICT活用」し、主体的に考え、伝え合う授業により全ての子どもに必要な資質・能力を確実に育成していきましょう。

(石狩教育局義務教育指導班指導主事 仲川太郎)